

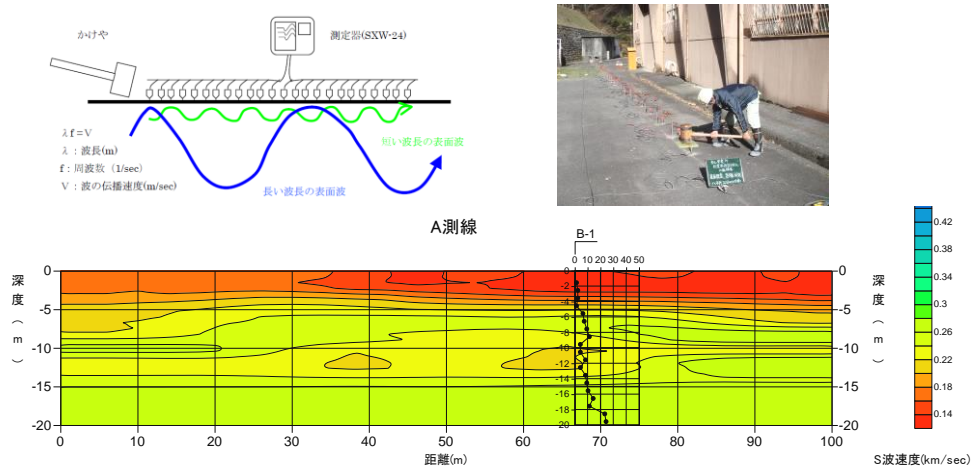
6. 表面波探査と地中レーダー探査による都市部地盤構造の解明

- ▶ 様々な制約の中で、都市部の地盤調査に適した効果的な探査手法の選定。
- ▶ 探査作業時間とボーリング調査数量削減による大幅な調査コスト縮減。
- ▶ 老朽化モルタル法面の空洞調査、岩盤緩み調査もお問い合わせ下さい。

■ 平野部の地盤調査に適した表面波探査

平野部における基礎地盤調査では、舗装や騒音に加え、電気ノイズや作業時間の制限等の様々な制約により、弾性波探査や電気探査の実施が困難な場合があります。こうした環境下での地盤調査では、表面波探査が適しています。

表面波探査とは、地表付近を伝わる表面波（レイリー波）が周波数によって異なる伝播速度となる性質を利用して、これを解析することで地下構造を探査する方法です。弾性波探査と異なり、表層の舗装の影響を受けず、短時間内に多くの測線探査を実施できることなどから、都市部の軟弱地盤調査や空洞調査として多く利用されています。また、N 値との相関性に優れており、軟弱地盤でのボーリング調査数量の削減など、大幅なコスト縮減に繋がります。



■ 地中レーダーによる詳細な埋設物調査

表面波探査により、空洞や埋設物等の疑いが認められた場合には、さらに詳細な状況を把握するため、地中レーダー探査を実施します。地中レーダーの技術は、平野部での地盤調査のみならず、老朽化したモルタル吹付け法面やダム、河川堤防等の内部構造調査にも活用しています。

